

自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける No.42

「3月を駆け抜けた花々 Flowers that ran through March」

4月1日 記述

あっという間に3月が過ぎ、起きた時はすでに外は明るく、桜や桃の花が目に入る。日の出がいつの間にか5:30前になっていた（ウソではない）。春、春、春なのだ！もう後ろに戻ることがない。自然界の生き物たちは備わった命を燃やし、自己の存在をアピールしているようだ。植物たちは次々に花を咲かせ、その様は爆発的という表現がふさわしい。

そこで、3月に見た花を振り返ってみた（見た花の数の半分にも満たないが）。お馴染みの花が大部分と思うので解説は不要だろう。地面にそっと芽を出し、小さな花を咲かせ既に退場した野草も多い。そんな中で可憐で特に目を引いた花がシデコブシ(花卉数が何と9~25枚)とキクザキイチゲ(キンポウゲ科)。

検索中に学んだ知識：

- ① ツクシ(土筆)は春先に出る孢子茎の名で、正式名はスギナ(杉菜)。英語名を訳すと「野原の馬の尾」。土の筆と見た日本人との違いがおもしろい。
- ② ホトケノザ(仏の座)は、別名「三界草」。春の七草の仏の座は別の植物。
- ③ ハナニラ(花萼)には白、ピンク色もある。英語名はSpring Star(春の星)。
- ④ ドウダンツツジ(灯台躑躅)には別名があり、満点星。連想できますか？
- ⑤ レンギョウ(連翹)のギョウの意味は「つまだ(爪立)てる」で、花が連なって爪先立ちしている様を表している。
- ⑥ ハナズオウ(花蘇芳)は、赤色染料・蘇芳(スオウ)の木を用いた蘇芳染めに由来。